

# プロジェクト・チームによる 森林教室の実施について

富山営林署庶務課 清水 陽 一

## 1. ま え が き

私たちが日常の仕事を進める場合でも、計画、検討の段階から参画して実行に移せば、自発性が高まり、気持ち良く、内容も充実した良い仕事出来る。国有林の広報活動の一環として、又地域と一層密接な関係をもつために、営林署で行われている森林教室は、現在のところどれだけやらなければならないという仕事として決っていない。したがってこの実行にあたっては、一層この「自発性、やる気」の充実体制づくりが成功のポイントとなっている。

富山署では、昭和54年度から今年度までの5年間森林教室をやってきたが、2年前から署内に森林教室プロジェクトチームを構成し、多くの人による計画討議、実行参画によって実施してきた。その結果、実施した学校も増え、内容も充実して好結果になったと思われたので、当署での森林教室の経験、経過の概要を報告する。

## 2. 当署の森林教室のとりくみのはじまり

富山署では、昭和54年越中五箇山刃利自然休養林完成を機に、はじめてブナオ峠野営場を利用し、地元のみどりの少年団を対象にして、一泊キャンプ形式の森林教室にとりくんだ。その内容は、

- (1) 地元教育長、署長らによる森林のはたらき、森林づくり等の野外講義。
- (2) 樹木に樹名板つけや、樹名、樹高調査競争などで森林に親しむ。
- (3) キャンプファイヤーで子供たちと楽しく交流、映画も上映。
- (4) 父兄にも参画を呼びかけ、親子で森林に親しむ。
- (5) これら参加、準備は管理係が中心となって、当日は署内と担当区の応援体制をとって実行にあたった。

## 3. キャンプ形式森林教室の反省

営林署主導型のキャンプを2回行った後、実行にあたった署員で反省会をひらき、反省点を次のようにまとめた。

- (1) これらのとりくみは、管理係中心でなく、もっと全署的体制でとりくまなければ、営林署行事

とならない。

- (2) 実施校は休養林の地元だけでなく、富山市内や全県の範囲までひろげるべきだ。
- (3) 営林署主導型の行事は大変であり、学校の行事に参画していく形が良いのでは。
- (4) 子供たちの集中度から、講義は短かい方が良い。

#### 4. プロジェクトチームの発足

上記反省をもとに、昭和57年度の森林教室の実行にあたって、「次長、庶務課長、経営課長、庶務課2名、経理課1名、経営課2名、治山課1名」からなる森林教室プロジェクトチームを発足させ、次の方針をたて実行にとりかかることにした。

- (1) 県下国有林所在地の小学校を優先目標にしながら、都市部小学校でも実施を目指す。
- (2) 学校を訪れ、校内（教室）で1時間ぐらいの日程で講義と映画を実施する。
- (3) 教材は「森と木の質問箱」を中心にすえる。
- (4) 講師体制と資料づくりをする。
- (5) 県の緑化週間中に実施計画をたてる。
- (6) 学校グラウンド等に緑化木の植樹も行う。

#### 5. プロジェクトチームによる実施結果

- (1) 学校を訪れ、1時間の森林教室実施を要請すると案外すんなりと応じてくれるところが多く、予定していたところはほぼ実施する。
- (2) 昭和57年度は7校1,300名昭和58年度は11校780名の実施、そのうち都市部で3校行う。
- (3) 教室での講義とあわせて、芦峯寺苗畑でスギ床替体験や、学校グラウンドの一角に学校の森づくりを指導する。
- (4) 新聞、テレビなどマスコミも取材報道し、森林の重要さの啓蒙、営林署の広報活動に役立った。
- (5) とくに学校の森づくりのプランニング、チーム全員による植樹指導に、さすが営林署と評価があった。

#### 6. ま と め

○プロジェクトチーム体制で良かった点

- (1) チーム内の多くの意見の集約で内容が充実する。
- (2) 全署的なとりくみとなる。
- (3) 講師要員が増え、特定の人への負担が軽減された。
- (4) 森林教室を多くの学校で実施することができる。

○プロジェクトチーム体制の問題点

- (1) 日常業務がいそがしくなると、チーム結集が悪くなり、むしろ弊害となる。
- (2) 署の確固たる方針の裏うちがない限りスムーズに行かない。
- (3) 経費が少ない。

○当署の森林教室実施の方針

キャンプ形式、校内教室など試行錯誤の教室を経験する中で、現時点での当署の森林教室のあり方を次のようにまとめることができる。

- (1) 森林の啓蒙、営林署の広報活動としての森林教室の役割は大きく、更にプロジェクトチームの継続で、全署的な体制を確立していく。
- (2) 子供の集中度、安全性、掲示し易い、映画ができる、又学校側も応じ易いことから、森林教室は、学校を訪問して実施する。
- (3) 内容は1時間の範囲で、講義と映画をし、要請があれば、学校緑化も指導する。
- (4) 県の緑化週間にあわせて時期を設定していけば、マスコミの取材も多くなる。
- (5) 子供たちの反応を正しくつかみ、更に内容を良いものにするため検討していく。